

定禪寺ジャーナル ウエブ版 デイベート編

## 第六回 「震災と反戦（2）」

2011年8月23日 18:00~19:45

せんたいメディアテーク2F「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

門脇 「定禪寺ジャーナル ウエブ版 デイベート編」の時間です。みなさん、いかがお過ごしですか。私は今、仙台市青葉区定禪寺通り沿いにあるせんたいメディアテーク2階「3がつ11にちをわすれないためにセンター」に来てます。そしてもうお馴染みですね、この人、「定禪寺ジャーナル」編集長の鈴木太さんです。

鈴木 こんには。「定禪寺ジャーナル」編集長の鈴木です。

門脇 そして私、現代アーティストの門脇篤です。レギュラーの太田一彦さんは今日はお休みです。その代わりというわけではないのですが、今日はスペシャルゲストとしてシークレットゲストがやって来ますので、お楽しみに。今週末、たいへんなことがありますね、鈴木さん。

鈴木 たいへんでもないですよ。遅れていた仙台市議選がようやく始まりました。公示前から私のところには各党の候補者、それと個人的にお客さんになつてもらつている方が何人かいる関係もありまして、いろんな方がお店（※仙台定禪寺通りと一番町四丁目商店街が交差する路上にある鈴木さんの「ビッグイシュー」販売スペース。

鈴木さんはこれを「店」ととらえ、「ハッピー・パニック仙台四号店」と名づけている)の前で街宣カーを使つたり使わなかつたりでやつています。ある党は選挙カーを自肃、もしくは個人的に街宣活動から選挙活動自体まで自肅するといふことも見られます。何人かの候補者の話を聞いて、市議選なのかちよつとわからない感じがしました。市議というのは市の中のことをやるわけで、グローバルとかいう最近流行の馬鹿な言葉は出ませんでしたが、原発うんぬんを全面に出して来る人もいまして、国会議員もしくは県会議員が言う話なんじやないかなと。市会議員が掲げるマニュフェストとすれば、もう少し市にあつたような話を持つて来るべきなんじやないのかと。裏を返せばその人には市議選に出る覚悟が感じられない気がしました。

かつて政治家というのは、自分の命を賭して戦いながら政治をやつている方が多かったです。例えば五・一五事件で暗殺された犬養総理大臣、東京駅で襲撃された濱口雄幸、斎藤実（まこと）、極東軍事裁判で、文官で唯一死刑になつた広田弘毅さんなど。かつて政治家というのは生死を賭けた職務だったなどと思うのに比べ、今の政治家というのはあまりにも存在が軽くなつてしまつていいと思います。命を賭ける賭けないというところまで言つたので「あんたには入れないから」と言つて来ました。「選挙カーでなく自家用車を出した」などと屁理屈を言ったので「あんたには入れないから」と言つて来ました。ただその6人が6人とも全部駄目かというとそうではなく、本当にとことん身体張つてやつていてる人はどうかなという気もしますが、本当にこの人に任せていののかなという感じがします。仙台に限らず全国的に衆議院選挙や参議院選挙など見ても、候補者うんぬんというよりも、有権者がよくなくなつてているという感

じもします。政治家を育てるのは有権者である国民です。国民がよくなければいい政治家が生まれるわけはないというのが私の考え方です。ろくな政治家がないという中で、今の国民自体も質がよくなくなつてているのではないかと思います。

門脇 そのへんの話は「デイベート編」第三回の「震災と祭り」で話したことにも通じるものがありますね。もともと政治はまつり」ととも言います。いい加減な祭りをやる主催者に対し、それと争うかのように観客の方もひどいマナーで応じるという負のスタイルが見られましたけれども、それが政治にも見られると。

鈴木 もうひとつ加えますと、（仙台市青葉区の）19人の候補者の中で7人ほどの候補者のポスターに「ノー選挙カー」というステッカーが貼られていますが、

そのうち6人が明らかに違反をしていました。何も重箱の隅をつつくようなことを言つてはなく、嘘をつこうが何をしようがまともな政治をやつてくれれば構わないと思うんです。その6人は知り合いで「選挙カー出さないと言つていたけど出てたね」と言つたら、結構な人が何をしようがまともな政治をやつてくれれば構わないと思うんです。その6人は知り合いで「選挙カー出さないと言つていたけど出てたね」と言つたら、ただその6人が6人とも全部駄目かというとそうではなく、本当にとことん身体張つてやつていてる人はどうかなという気もしますが、本当にこの人に任せていののかなという感じがします。仙台に限らず全国的に衆議院選挙や参議院選挙など見ても、候補者うんぬんというよりも、有権者がよくなくなつてているという感

門脇 鈴木さんと話をしていて思うのは、仙台に住みながら全然仙台のことを知らない。仙台に愛情を持てない。

市議選にも興味がない。今週末選挙ですが、いまだ誰が候補者なのかも——いつものことですが——知らないんですね。

ひとつは投票してどうなるんだろうという気持ちがあります。それは自分が住んでいるまちというのは、たまたま住んでいるというだけの話で、好きで住んでいるわけではないし、一生住みつづけるかもわからない。例えば自分がひとりがごみを拾つたからといってまちがよくなるわけでもない。選挙で言えば自分の一票で何が変わるのが、という意識です。

その一方で、自分の一票で何かが変わるわけではなくても、きちんと見て選ぶということ、あるいはごみ拾いで言えば自分ひとりが拾つたぐらいでまちはきれいにならないわけですが、こうしたことを通じて自分の住むまちの市政やまちづくりにに参加するということが大事だとも思います。

実は、このふたつが私の中に混在しています。混在じゃないですね。私の場合、自分のまちだとものすごく関心が薄れるんです。逆にひとのまちのことだときちんとリサーチしたり、何かが変わるとか変わらないとか結果だけ見るのはなく、参加するというプロセスが大事ですとか偉そうなことを言うわけです。これは私の特殊事情なのか、私のような人間が仙台には多いのか……。

鈴木 仙台に限らず宮城の人っていうのは、県知事の本間さんが捕まつたりとか、市長も何人か捕まりましたね。そうした駄目な人を選び続けてきたという悪い「ノウハ

ウ」があります。それを反面教師にして選挙にうまくもつていけばいいのにと思います。もしかしたら仙台の人たちは人を見る目がないのかもしれません。しかし全国の国会議員を見てもまともだなと思う人は少ないです。

だから仙台・宮城に限らず全国的に人を見る目がなくなつて来ているのかもしれません。門脇さんが今言われた「自分が入れたくらいでどうなるんだ」ということに関しては、私もそう考えてしまいたい時はあるんですよ。でも「ローマは一日にして成らず」という言葉もあるし、その政治家を生かすも殺すもその一票というか。「私くらいい」という人が何万人も出て来たらどうなつてしまふのか。

門脇 今日のテーマは「震災と反戦」の二回目ですが、民主主義が全体主義を生んだとも言えるわけですよね。鈴木 全体主義と民主主義は表裏一体なんです。ヒトラーも多数決で選ばれてああいう状態になつたわけです。スターリンや毛沢東にしてもそうなんですよ。いやあスターリンや毛沢東は民主主義かと言つたら違うじやないですか。

門脇 民主主義の結果生まれて来た、「違うもの」なんですね。

門脇 最初、民主主義を目指していたものが、出口とし

ては強いリーダーに全部任せてしまおうと、民主主義が民主主義を屈辱してしまった。自分たちすべてを決めしていく喜ばしいもの、権利として始まるわけですが、だんだんにそうでなくなつていく。例えばアフガニスタン

のこどもの多くは働かされているので学校に行きたいためです。ところが日本のこどもに学校に行きたいかと聞くと「行きたくない」という答えが多いように思いますが、それに似ているかもしれない……。

(スペシャルゲスト渡辺さん登場)

門脇 ここでスペシャルゲストをご紹介しましょう。「地球対話ラボ」の渡辺裕一さんです。

渡辺 あ、どうも。ここにちは。

門脇 渡辺さんは、実はこの中継で初めてのリアルゲストです。渡辺さんは「地球対話ラボ」ということでどのような活動をされているんですか。

渡辺 「地球対話ラボ」というのはNPO法人なんですが、十年前からやつていまして、十年前にアフガニスタンと日本の高校生の間でテレビ電話をするという活動からスタートして今に至っています。

門脇 先日、私は東京大田区で行われた「地球対話ラボ」さんと横浜の「アート・ラボ・オーバー」さんの企画による「じぶんのセカイをえいぞうにして世界とつながる」に参加しました。大田区は外国人の方も多く、ボランティアにもいろいろな国の方が来ていましたが、地域のこどもたちがi-Podを使い、スカイプ経由で会場に送つて来るレポートをUstreamに流すという

企画でしたね。十数名のこどもたちが大田区の自分たちの気になる場所をレポートし、全世界に発信する中で、台湾の方からレスポンスがあつて、対話も行われました。渡辺 基本的に対話というのがベースで、一方的に生中継というのはちょっとあれなんですけど。

門脇 この「定禅寺ジャーナル ウェブ版 デイベート編」も対話というのを大事にしたいと思っているんですけど、なかなかゲストや参加者がおらず、最初スカイプによるゲストという試みをやつてみたんですが、なかなかうまくいかないんですね。ネットを中継して対話をしようとすると温度差というか、空気感のようなものが伝わらず、うまく対話が成立しない。鈴木さんはツイッターやネット関係には不信感を持つっています。

鈴木 いや、不信感じやなくて、嫌いです。はつきり言つて廃止した方がいいと思つてます。医療とかどうして

もネットじやないと駄目なことだつたら使わなければ

ならない部分があるんですけども、使わなくてもいい

部分まで使い過ぎてしまつているというか。そのせいで思ひぬ病気を引き起こしています。ネット、パソコン、携帯電話と鬱の関連性というレポートを今書いていまして、近いうちにどこかで発表するつもりでいます。ネットや携帯というのは一利あるも百害どころか万害くらいあると思います。人間関係もそうですし、人間が人間らしくなくなつてきている要因のひとつだと思います。私が総理大臣になつたらNTTのiモードを開発した人を市中引き回しの上打ち首獄門にしたいくらい腹

が立つています。

門脇 というのが鈴木さんのお立場です。今日のテーマである「震災と反戦」ということでも情報というのが重要なものだと思うんですね。震災で言えば情報がないことで逃げ遅れたり、あるいは戦争で言えば情報管制・操作によって戦争へと突き進んだというところもあるのではないか。その一方でネットを介することで今回のチュニジアやエジプト、リビアにおける革命のようなものが起つりえたという面もある。ネットや情報についていかがお考えですか。

渡辺 情報はやはり重要ですよね。だけれどそれは何もネットでなくともいいわけです。BS11というデジタルBSのチャンネルで毎週火曜日の22時45分くらいから「いま私たち市民にできる」という市民参加の放送というのをやつています。震災を支援する団体が情報発信をしたりという放送なのですが、その取材で今回、石巻と南相馬に行つて、今帰つて来たところです。その放送は4月から毎週やつていますけれど、手話を必ずつけるんです。字幕もつけます。なぜ両方つけるかを説明すると長くなるのでそれは置いておきますが、今回放送をやるにあたつてキヤスターの方にも聾啞者の方に登場していただいてやつたりしています。聞こえない人たちの世界は親しく接するまで全然知らず、自分の不勉強がわかつたのですが、その中で、今回の震災の話で言うと聞こえない人はたいへんな状況に置かれたそうです。音で警報を出したりするので聞こえない人は何が

起きているのか全くわからない。そのためには逃げ遅れて亡くなつたという話も聞きました。いろいろな情報がテレビなどで流れているわけですが、これも聞こえない人にとっては一字幕も一部入つてゐるところはありますけれど——たいへんな状況だつたと。聞こえない人のための情報を何とかしたいということで、「DNN」というウェブベースの活動をしてゐる団体がいるんですが、手話でニュースなどの情報を震災直後から聞こえない人向けに発信するという活動を今でもやつていて。そういうものはウェブで発信されるとても重要な情報であり、必要とする人もたくさんいると思います。しかしそうした情報がある一方で、おつしやる通りいろんな情報が流れていて、いかがなものかというものもあるわけで、そういうものを浴びていたらどうなつちやうんだろうということは確かにあります。

鈴木 情報が玉石混交どころじやなかつたんじやないかなと。金がなくなつてしまつた金山から金を取るくらいひどいものが多かつたと思います。全否定しているわけではないです。必要悪として認めています。でも必要悪なんですよ。自分の生活ではいっさい使いませんが、それですつと生きてきているわけです。使わなければ駄目な人たちも存在します。僻地医療で医師との間での遠隔医療であるとか、そういうものに関してはネットは必要だと思いますが、使わなくていいのに使つてゐる人があまりにも多過ぎるように思います。これだけ国土が狭いのに馬鹿みたいに車を売つちゃつたというのと似て

います。「みんな持つてたから」という感覚が本当にこの国には多いなという感じがします。東ヨーロッパあたりではネット、携帯がなくて生活している人はいっぱいいますし、アフリカにしてもケニアのナイロビなど大都会は別として、有史以前の生活をしている人がたくさんいますが、それでもそれなりにやれているわけです。文明が進んでいるから幸せだ、進んでないから不幸せだという感じではないと思います。例えば「三丁目の夕日」という映画が出た時に、懐かしいなど感じた人がいっぱいいたと思うんです。というのは、不便は不便だけど、不便なりによかったということを映画の中で描いていいと思うんですね。あの当時濃密だったはずの人間関係が今チャットかよ、ツイートかよと。顔が見えない人間のアンドロイドなのかよくわからないものを相手にしているような感じばかりが増えてきてます。ツイートとか言われて毎回見るんですが、自分ではピンとも来ないし、だからひとりでも多く来てほしいなと思つているんですが。私は正直、この番組の中で好き好んで悪役を演じさせてもらつています。刺されてもいいくらいのことを毎回言うんですよ。でも反応がほとんど来ないし…。

渡辺 もっと過激に言わないと。

鈴木 でもそうなつてしまふとちよつと違うのかなと。

門脇 ひとつはこの場の作り方が間違つてゐる可能性がありますよね。人が来やすいのかどうか。例えまごみ捨いをみんなでやろうという時、楽しそうにやると参加

しやすいでしようし、厳しそうなら参加しにくいかもしれない。もうひとつは、もともとこういう場が求められていなかという可能性です。そういう場は嫌だとか…。

鈴木 うざいとか。

門脇 うざいというより怖いというか。

鈴木 あとはめんどくさいというのが一番多いと思います。十代二十代でも三日くらいたたら死ぬんじやないかというような感じでふらふらしながら歩いている連中が多いんですよ。健康がどうという感じではないで

す。何かわからないけど元気がないし、疲れているのか」というと「かつたるい」「だるい」「めんどくさい」—「ピックゲインシュー」の売り場に立つてるとそういうものを感じます。反対に五十代以後が非常に元気です。ということはあと何十年かたつて今の五十代がみんななくなつた後、若年性老人とかいうわけのわからない病気が増えちやつて、平均寿命が三十を割つちやつたりするのかなど考えたりするんですよ。

門脇 私もこどもに教えていると「めんどくさい」という言葉はよく出て来ます(※門脇は仙台で癒し系学習塾を開いてる)。ひとつは自分がチャレンジできるもの以上のことと共に与えられ続けて無気力になつてしまい、「どうせやつても無駄でしょう」という意味での「めんどくさい」という子がいます。犠牲者ですよね。そういう子もいます。非常に元気な子で、例えば本を読むのがめんどくさいと言います。ゲームや漫画の方が楽だという話なんですが、それは漫画で済ますことができ

るものなのになぜ本を読まなきやいけないんだといふ

発想なんですね。小説が映画化されてたりするので、

映画で見たからいいという話になる。それは違うんじや

ないかと言つてもなかなか伝わらない。これは先にあげた無気力感とは違うめんどくささですね。こちらは鈴木

さんの言う情報過多による犠牲者かもしません。

鈴木 うちにも「疲れた」「だるい」「めんどくさい」というタイプの若者がけつこう来るんですけど、話を聞いていくうちに小さい頃の話になると、家事を手伝つた経験がほとんどない。結局、ずっと何にもしないで来てるんですよ。何にもしないで来て、学生時代はあと一年半という時、その先のことを考えたら、何でも自分でやらないといけなくなるはずなんですが、社会に出て行くのめんどくさいと。あんまりたわけたことを言うやつは、正座させて二時間くらい説教します。

門脇 売り場で。

鈴木 そうです。そういう連中はまた来るのもいます。来ないのはもう二度と来ません。でも来ない連中を私は追つたりしないんですよ。それほど私の人生の残り時間があるとは考えられないのです。去る者追わずでいいのかなど。

門脇 もう一度来る子たちは、こうした場を求めているかもしませんね。

会場A(女性) 今の若いお母さんたちは、本を読んであげるとか、いつしょになつて遊ぶとかいうのではなくて、子供を生んでもずつとずつと自分が一番なんですよ

ね。私たちの世代というのは子供が生まれたら子供が一番というような環境の中で育ちました。今のお母さんがたはゲームをやつたり自分の時間を大切にする。子供といつしょに何かをして楽しむということがないし、ほめることがないんじゃないかなと。できて当たり前。何かひとつできたら「よかつたね」のひと言が今の若いお母さんたちからは出て来ないんじゃないかなと思うんですよ。

鈴木 任せきりなんですよ、何でも。学校に任せっきり、学童保育に任せっきり、塾に任せっきり。それで何かがあるとすぐ文句を言う。モンスター・アレントというのは昔もなくはなかつたんでしようけれど、自分勝手な人が増えたのかなと。任せっきりをされてしまった子供つて、「この親ってなんなのや」と疑問に感じると思うんですよ。疑問どころか「あの人には」という言い方をする子がいます。「親」って言わないんですよ。親を尊敬できないような構図になつてしまつているというか。テレビのCMなんかでもお父さんをないがしろにするようなものが出て来たり、お母さんが子供の前でお父さんの悪口をじやんじやん言つちゃつたりとか。お母さんといつしょにいる時間が多い子供がマインド・コントロールを受けてしまつて「うちのおやじ能無し」。悪口を言つているこのお母さんも尊敬できない。親子関係だけでなく、いろんなところで真綿で首を絞めるようなことになつちやつてる。おかしな殺人事件が増えているというのはそういうところもあるんじゃないかなと感じていま

す。私は4つの時から仕事を与えられていました。たいへんでした。井戸まで水を汲みにいったりとか。原始時代に近い生活をしている山形の山だったのですから。お使いも3キロくらい離れたところであつたりとか。でもお使いをやると、お使い先からお駄賃をもらつて、帰つて来ると「よくやつた。おまえだから頼んだんだ」と。たいへんなだけれども、家族の一員だと感じる。そういうものがあつたんですね。そういうことがあつたので私の子供二人にはちょっと頼んだり、自分が料理を作る時にはいつも作つたりして、いい悪いをはつきり言つていたりしたんですよ。そうなると話せる会話も増えて来ます。会話がないというのは、話せるだけのものが何もないんですよ。

テレビが家族ひとりひとりに行き渡るようになつちやつて、それぞれが違う番組を見るようになつた争いがなくなつたんだけど、地デジ化になつてまたでかいテレビを家族みんなで集まつて見るようになつたとか。地デジ化というのも割かし悪いことばかりじやないのがなという感じもします。人間関係ということをどうのこうのというのなら、まず家族関係からなのがなと。うちの「ビッグイシュー」の販売店というのは、一人暮らしもそうですが、6人暮らしなんだけれど家族で話せる人がいないんだという人がけつこう来ています。正直言うと今営業にならないぐらいそういう人たちがいっぱい来ていろんな話をして行きます。すごく落ち込んだ感じで来るのが、二時間くらいしゃべつてすつきり

した感じで帰つて行つて、「あれ、300円もつてない」ということがよくあります。金にならないことが多いんですが、そんなことしてまでやらなきやなんなくなつた自分の時というのは、コンビニのお姉さん、そしてあんちゃんたちと話せるだけでよかつたし、だから自分が本当の意味で孤独だなと思ったのは寝る時ぐらいかなという思いがあつたんですけど、パソコンや携帯に依存というところまでいっちゃんつてる人たちっていうのは、それしかないのかなという感じが最近しています。それは非常にかわいそうな話なんぢやないかなと。渡辺 最近の子供つて殴つたり殴られたりといふことがあんまりないんですね。先生にげんこつ食らつたりとが頭に浮かんできました。

鈴木 殴られた先生つて、今でも覚えていますし、みんな交流あるんですよ。一回こういうことがあつたんです。とても殴らないような先生が一回だけ自分を殴つたことがあつたんですが、殴る瞬間涙が見えました。今でもそれを覚えているんですが、昭和54年の6月17日、中学校2年の時です。本当に悪いことやりました。殴られた後に、申し訳なかつた、すまなかつたなと思いました。今、学校でそういうことになつてしまふとすぐ問題になります。昔は学校で先生にぶん殴られるなんて当たり前だったというのもあるし、ぶん殴り慣れてた、ぶん殴られ慣れてたというのもあるし、怪我をしない体罰に

みんな慣れてたところがあります。体罰容認というわけではないです。ただ駄目だという感じにしないで、なぜそうなつちやつたのかをみんなで話し合うとか、そういうものの方がいいのかなと思います。

門脇 「震災と反戦」というテーマで前回からやつていますけれど、鈴木さんの少年時代の話を聞いていて、私の原風景的なものを思い出しました。子供の頃から高校生くらいまでの時というのは、この時期になると「はだしのゲン」などが繰り返し流され、原爆や終戦のことが今とはちょっと違つたりアリティで流布されていたとか。その中で「強い日本」とか家父長制、強い組織といったマッチョなものが、戦争を起こしてしまったかつての日本を想起させる、ある意味いけないものと感じていました。例えば今、強いお父さんとそれを支えるお母さんみたいなものが再び見直されているように思うんですが、私が子供の頃に持つていた感覚というのは、それは家父長的、封建的なくみそのものであつて、それが日本の起こした戦争と結びついたある意味いけないものとして私の中にあるんですね。家族を守るとか、男は女を守るものだとかいうことに私はすぐ違和感を持つて来ました。

鈴木 そうなんですか。

門脇 男性が働いて女性が家にいるべきだとは思わない。でも今振り返るとそうした男女平等がもたらした問題が前面化して来ているのかもしれない。お母さんが家にいないという状態が切れやすい子供を生んでいるの

かもしません。男女におけるニュートラルで平等な地位というのを進めたためにいろいろな問題が起つているのかもしれません。でも男は女を助けるとかといつた発想は生理的に受け付けないんです。

鈴木 私、男尊女卑の考えはないです。ですが、ジエンダー・フリーという考え方とは一線を画している部分がありまして、アメリカ型の生活が浸透して来て、かなり男女同権だという状態ですけれども、男性と女性は基本的に違います。違う生き物と言つてもいいくらいです。

同じはずがないんですよ。だから男性がやれるることは男性がやればいいし、女性がやれることは女性がやつた方がいいと思います。例えばイスラエルの場合、全国民に徴兵制があつて女性兵士もいます。それがドンパチやつ

ているのを見ると非常に違和感があります。「バイオハザード」とは違うんですよ。現実にドンパチやつて首が飛んだりしているわけです。アメリカなどにしてもそ

ですが、女性警官が多くて、それでいろんな危険な目にあつたりしています。少年課という場合でしたら当然少女性の保護などもありますから女性警官が必要な部分もあります。ですがそこまで危険なところに体力的に劣る女性を勤務・任務させるのはどうかなと思います。男女

同権ということでアメリカではレディ・ファーストだという考え方があるんですけど、その反面、日本以上にドメスティック・バイオレンスや男性からの暴力が多く、ニューヨークの地下鉄などに乗るとDVにあつた女性の写真などが平気で貼つてあるんですよ。だからこうい

う国で女性にやさしくとか言つても裏の部分、本音と建前がアメリカにしてもあるなという気がします。アメリカ型になつてから、日本でも今まであまり表面的に出て来なかつたDVがものすごく増えています。「ビッグイシュー」でも55号で「DVからの脱出」という特集があつたりします。DVに関しては何でもDVとかセクハラとか敏感過ぎるのも問題あると思います。その民族にはその民族にあつた暮らしというのがあつたんだけれど、それを変えてしまつたというか。だからアメリカから文化的侵略を受けてしまつたと考えています。エスキモーが文化的侵略を受けた結果、アル中が増えたんです。

つまり、いいこともあつたかもしれないけれども、悪いこともけつこういっぱいあつたのかなと。門脇 例えばその男女同権と同様に、世界にはいろんな地域や民族があつてそこにはそれぞれの民族性、地域性があるんだという考え方にも生理的に受け付けないところがあります。エスキモーがコーラを飲んだり、アフリカ人がi·P·odを持つたりというのも、彼らだつて望んでいるんじゃないかな。望むなら手に入れる権利があるんじやないかと思うんですよね。逆にエスキモーはエスキモーらしい暮らしぶしなきやいけないんだというのは、外からの押し付け、思い込みなんじやないか。ある程度どんな地域、民族だろうとアメリカ人みたいな暮らしがしたいんじゃないかな。それが本当にいいかどうかはやってみないとわからないし、やってみた結果が今のグローバル化で、あんまりよくなかったとは思うし、うち

の妻も怒りますけど。

渡辺 何をしたんですか。

門脇 男らしくないわよ。戦後、鈴木さんの言葉で言えば「アメリカ化」された状態、同権化が進み、ニュー・トランクな状態、つまり地域性とか女性性——アラブ人はアラブ人の本質があり、女性には女性という本質がある——というのは「神話」なんじゃないか。そんなものはアラブ人になるじゃないか。だとすればそれはたまたま偶然の産物で入れ替え可能なんじゃないか。だいたいそんな風に思つて来たんですね。ただそういう感覚を持つメリア人になるじゃないか。だとすればそれはたまたまアラブ人がアメリカ人として育てられればアラブ人になるじゃないか。だから、何かあると

「実はこういうのがあるんだ」とか言つて後出し�けんをしたりと、文化的侵略以上、殲滅でもしようとしているんじゃないかというくらい私頭にきてます。なぐくともいいものがあまりにも多過ぎるということです。この間は駅弁の話が出ましたけれども（※第四回「震災と祭り」参照）、デーズニーランドなんて浦安になくて、全然関係なかった学校の先生、職人、いろんな人たちは、自分たちでえさをまいでおきながら、何かあるとアメリカから来ているんですよ。あの人たちつていうのは、自分たちでえさをまいでおきながら、何かあると

鈴木 アメリカはフィリップ・モリスに対してタバコを吸わない人から莫大な損害賠償というような話がある国なので、マクドナルドとかアメリカから来たジャンク・フードのお店に日本国自体が損害賠償を訴えてもいいのかなと思います。ジャンク・フードがなかつた時期には、メタボもそうですが糖尿病もこんなに多くなかつたんですよ。マクドナルドの第一号店が出来たのが1971年ですが、そのあたりから比べるととんでもないくらい増えています。潜在的な人を含めれば1500万人くらいいるんじゃないかと言われますが、昔はこんなに多くありませんでした。ジャンク・フード、ファスト・

フードなどは日本ではなく、自分たちが作ったものを自分たちで食べてという生活をしていました。そうした時期にも糖尿病はなくはなかつたのですが、村で一番の豪商ぐらいしかならなかつた病気が今、小学生でもなつてしまつ。喫煙によつて肺がんになつたのを害毒ととらえるのなら、メタボもそうなのかなと。メタボという言葉もアメリカから来ているんですよ。あの人たちつていうのは、自分たちでえさをまいでおきながら、何かあると

「実はこういうのがあるんだ」とか言つて後出し�けんをしたりと、文化的侵略以上、殲滅でもしようとしているんじゃないかというくらい私頭にきてます。なぐくともいいものがあまりにも多過ぎるということです。この間は駅弁の話が出ましたけれども（※第四回「震災と祭り」参照）、デーズニーランドなんて浦安になくて、全然関係なかった学校の先生、職人、いろんな人たちは、自分たちでえさをまいでおきながら、何かあると

能够だと思ひます。本当に腹が立つ。奥山さん（※現仙台市長）にしてもよくやつていてると思うんですよ。あんまり能力ないと私は思いますけど。ないならないなりにけつこうやつてると思う。あの人たつてたぶん味方がいないんじゃないかと思います。あの人のような役割をツイートとかでほえている連中がやれるかといえばやれない。やれない人間がああだこうだ言わない方がいいと思う。門脇 ネットが有効なアドバイスや意見交換ではなく、中傷にしか使われていないと。

鈴木 「2ちゃんねる」の西村なんて即刻死刑にすべきだと思う。結局海外に逃げちゃつたでしょう。自分に責

軽々しく言う自分もどうかと思うけれども、言葉で人つながりはないなんて言つてるくらいだから。「死刑」なんて

年がんばればいいんですか。がんばれる人はがんばればいいし、がんばれない人はもうちょっとゆつくりすればいいんですよ。

まんなかつたりするということもあります。  
門脇 マスコミの方はそれなりにうまいわ  
発言の仕方が。

ティング」(※2011年7月29日、仙台長町で行われたシンポジウム。村上タカシ氏がコーディネートし、

森美術館の南条館長や宮城県内の美術関係者などがアートによる復興支援の可能性について考えた)で「言葉

よりアート」と発言しましたけれど、言葉のようなメッセージ性の強いものは危険だと考えています。「ビッグ

イシュー」でも「共に生きよう」というスローガンを出しちゃっていますけれど、スローガンなんていらないと

思います（※震災直後に仙台を訪れた「ビッグイシュー」ジャパン）代表の佐野章一氏に鈴木さんは「がんばろう」

は危険だとの見解を伝えた。ところがこれが「ビッグイシュー」編集部に持ち帰られると、「がんばろう」と言ふ代わりに「共に生きよう」と言おうというキャンペーンにすり返られてしまい、現在も展開中である。

門脇 アメリカにはそうした法律があるとか。市民が発信する権が必ず何%か設けなければならないと。これには何か歴史的経緯があるのでですか。

渡辺 言われましたね。最近言わないけど。  
門脇 テレビからネットやゲームに矛先がかわったんで  
でしょうか。ところで、先ほど渡辺さんから紹介のあつたB.S.1.1「いま私たち市民にできる」とで、私も一  
本取材をしたんですが、間に入っていた横浜のアーティ  
ストユニット「アート・ラボ・オーバー」さんから「マス  
コミじやない視点で取材してほしい」と言われて、最初  
は無理なんじやないかと思いました。というのはその時

があるべきだと思ふんですけれど、ウェブは逆転していい  
て、ある意味誰でもアクセスし、発信できるわけですよ  
ね。自分で発信するということは、発信したいことがあ

言葉なんて必要ないです。負けた人たちや何かあつた人たちには何言つても駄目なんですよ。「がんばろう」なんかもそうだし——「がんばろう」って、何回も言いますけれど、神戸の震災だつてまだ完全に復興しているわけじゃないんですよ、二十年近くたつていて。ということはそれよりも規模の大きい今回の震災で、いつたい何

りしていました。被災地についてもうこれ流すものがあるのかというくらいの情報が流れていたんですね。(う難しさを痛感するとともに、何もできないと無力感を感じました。これは基本的には今も続いています。

と、取材される側は構えちゃうんですよ。これは自分も避難所でずいぶん言われたんです。口調が変わるんです、取材される側が。例えば標準語みたいな風になつちやうとか。普段の言葉にならない。ところがジャーナリストではない自分には普段の言葉で話しかけてきます。

「あいなの来るよ、構えちゃうんだ」とかいう話だつたんで、確かにそうだなど。

門脇 取材される人自身も相手のために言つてほしそうなことを言つてしまふんですね。

渡辺 ありますね。

鈴木 予定調和というか、注文相撲と言つたらおかしいんですけど、そういう構図で切り取られちやうというか。だからテレビの取材などは、現地に行つてとりあえず話は聞いているんだけど生々しさがないなと。一流レストラんでソムリエとかがいきなりペプシコーラとか持つて来たと、そんな感じでしようかね。

門脇 わかります。アートでも何か見たことあるなどいふものと、ものすごく生っぽいものとがあるんですよ。見たことあるなというのは型を意識しているというか、ある種のノウハウの上で見せてるんですね。それに対して「出しちやつた」みたいなものが面白いんですけど、ある意味安心して見られるものではないで難しいといえば難しい。それはアートに限らず、報道や政治、教育などにも言えるのかもしれないですね。

鈴木 この番組だって、脚本や進め方があつてその通りにやるんだつたら出ないと思うし。たいへんなんですよ、

脚本や筋書きがないのは。一か八かが二時間近く続くということなので。でもそういうのじやないと自分がやる意味もないし、ふたりが組んでやる意味もないのかなと。

門脇さんのプロフィールに「好きな言葉・見切り発車、アドリブ」とか書いてありますけど、自分もそれに近いのかなと。しかし私は臆病な人間で、初めての建物つて非常口がどこかのかとか全部チェックしてからじやないときちゃんと入れません。

渡辺 ちなみにここ、逃げ口はどこなんですか。

鈴木 そつもあるしそつもあります。仙台一番町四丁目商店街のどこにAEDがあるかとか、メンテナンスはいつ受けたとかまで知っています。というのは、AEDはあるから安心なのではなく、使えるから安心なんです。使えないケースもあります。意外とバッテリーが長持ちしないんですよ。去年の12月、「SENDAI光のページェント」と忘年会・新年会の時期が重なりまして、うちのお店の周辺で救急車を何回も呼んでます。心臓止まつた人もふたりくらいましたから。AEDを使つて蘇生したので大丈夫だつたんですけど、あつてもその建物が閉まつちやつてるとかありますから。

会場A 私、ボランティアでコーヒーを持つて行つたりしているんですが、今、仮設住宅で上に立つ世話役といふんですか、あまりにも違い過ぎるというか：私が受けた感じなんですが、あるところではコーヒーを持って行って「いかがですか。飲みにいらしてください」というふうです。あまりにも違います。なんか沙汰も金しだいなのが世話の方はかなり力を持つていて、あれこれとみんなの世話を本当に焼いてるんだと思うんですね。でもその一方でみんなは頭が上がり、言うことを聞かなきやいけない、機嫌をとらなきやいけないという存在でもある。それは異様な雰囲気でした。

鈴木 実際、金銭とか物が飛び交う状況があるという話も何回か聞いています。なんとかの沙汰も金しだいなのが世話の方を選ぶのか、それとも市とかかなと。二回や三回ではなくいろんなところで。毛布2枚プラスするために物だつたり金だつたりとか。震災十

ですが、「え、何こことはこの人に遠慮しながら?」といふような場所もあるんですね。誰がそういう人を選ぶのか、そこに入っている人が選ぶのか、それとも市とかが世話の方を選ぶのか、ちょっとそのへんまではわからぬんですけど…。

門脇 それは都市部の仮設住宅ですか。

会場A そうですね。あまりにもびっくりしてしまつて。

門脇 私が訪ねたのは田舎の方の集団避難所だったんですが、世話役の女性の方がいて、ものすごく女性のみなさん気を使つていました。「今日、仮設に入るんですけど」という方がいて、ここから逃れられるのがうれしいといふ感情に満ち満ちているんですねが、劣悪な環境といふだけなく、世話役方のの制圧下から逃れてプライバシーのある生活に入れるのがうれしいというのが強く伝わつてきました。ただその喜んでいる方も、世話役の方のおかげでこの避難所に何とか入ることができたといふんですね。だからすごくお世話になつていて、その世話役の方はかなり力を持つていて、あれこれとみんなの世話を本当に焼いてるんだと思うんですね。でもその一方でみんなは頭が上がり、言うことを聞かなきやいけない、機嫌をとらなきやいけないという存在でもある。それは異様な雰囲気でした。

日目くらいまではそういうのをけつこう見ていました。金はあるけど物はないという状況が続きましたから。仙台市内中心部から沿岸部に近づけば近づくほど物がないので。金があつても意味がないんですよ、物がないから。

門脇 その世話役の方が生まれるプロセスというのが、政治家が生まれるプロセス、我々がその人を選んでしまうプロセスなんじやないかという話ですよね。なぜそうなるのかと。

会場 A 仮設住宅に入つてしまふと約2年間ですよね。その2年間という生活は私なんかには想像できないようだ…アパートに自分で部屋を借りて入つたっていうんなら、やだわ、はい出ますで済むと思うんですけど、仮設住宅としてそこに变成了った時点で、あと2年間…どうなのかなと。私だったら耐えられない。まあ気ままなあれかもしれないですが。

鈴木 私は神戸の折に医療ボランティアで何ヶ月間か入り、その後も断続的に何度も行っているんですが、カウントダウンがすごかったです。仮設住宅の人たちは2年目に入った時点からあと何ヶ月しかない、しかしこへ行くあても全くない今まで。期限の決め方もどうなかなと。神戸の時と比べるとちょっと短いんじゃないのかなと。それから仙台の仮設住宅はあまりまだ入つません。その一方で民間の物件を借りるためにひとりもの1DKクラスで確か6万円くらいの補助が出ます。家族だと十万円くらい出るので、不便な仮設住宅に行くよりははるかにそつちの方が多い。だつたらなぜそんなに仮

設住宅を作つちやうのかなど。勧めるのも違う課で進めたりというのもあるのでもうちよつと一元化して無駄のないようにするべきなんじやないのかなと思います。そうした要望書も出したんですが、まだ回答が返つて来ていません。

門脇 仮設住宅で権力を握るとおなじようなシステムで政治が動いたり、戦争が起つたりするんじやないでしょうか。仮設だからとか震災だからとかいう特殊なケースではなくて、一般にそういう風になつているんですね。普通に町内会とか、一家の中などでとか。いろんなところで起こっていることが積もり積もつて戦争になつたりならなかつたり、DVになつたりする。

鈴木 ひとつのことつて、小さいことなんだけど、そういうことが積もり積もつてサラエボみたいになつちやうんじやないかなと。ユーゴの内戦、旧ソ連崩壊と今の仙台の状況がきわめて似ているということを何度も指摘していますが、前者は今の仙台より悪くないです。今回の方方がはるかに根が深いんじやないかと考えています。というのは、ユーゴヤソ連の時よりも、仙台市民の心、5つの区の心が乖離し過ぎていて、はつきり言つて別の市というより県も違うんじやないか、下手すればここ日本なの?と思つちやうくらい違う。

門脇 このような状況が悪い方向へ向かうのを避けるためには、システムが大事なんでしょうか、それとも地域を愛する心が大事なんでしょうか。

鈴木 ナショナリズムもあり過ぎれば「海ゆかば」みた

いになつて天皇陛下万歳みたいになつちやうし、ほどほどなんですよ。ほどほどということを今の人たちは知らない。だから「これいい」となると、ほとんど猿のなんとかみたいになつちやうんですよ。そして駄目になつちやうまでやつちやうでしよう。

門脇 自分の住むまち仙台にみんな無関心だ、みんなもつと関心を持とうよということで、みんなでごみ拾いをするとか、草の根の取り組みがあるわけですよね。でもやっぱりなかなかみんな参加しないじやないですか。そうするしたい人がやるだけではなく、ある程度みんなが市民参加せざるを得ないようなシステムをつくる必要があるのでしようか。

鈴木 それは歩き喫煙が多いから規制をかける、自転車が多いから規制をかけるというのと似ていると思います。規制をかけるほどではなくて、不文律みたいなものでいいんですよ。アメリカから契約だと規制だと、私から見ればあまりよくないようなものが来てしまつてから、なんでもかんでもがんじがらめで…例えばごみにプラスティック、紙とか書く必要ないんですよ。一番あきたのは、原発臨界の時もそうだし、今回も渡した薬(※ヨウ素)があるじやないです。あれにもプラスティックと書かれてるんですよ。あれを飲むような状況だつたらゴミ分別も何もないはずなのに、そこまでやつちやうんですよ。なんにでも手を切る恐れがあるからと書いてあるし。

門脇 規制で何でもやるのは私も反対なんです。自分の

まちをよくしようというのに、規則でやるとか：経済的利害を用いるのはちょっとグレーディングですが…本当は面白いからやるのが一番いいんですよね。でもその面白いからやるという強度が、どこまでアピール力を持ち得るのか。選挙に一票入れてどうなるんだぐらいの無気力感に陥る時もあるんですね。ものすごい金をかけてキヤンペーンを行つたり、大勢動員したり、中心街を丸ごとショッピングモールに入れ替えちゃつたりというのが一方にあって、その一方でみんなでごみを拾いながらまちのことを知ろうとか、あんまり人の来ないアートでまちの人のコミュニケーションを多様化しようとかいうのをやつっていると、これ何回繰り返せばまちがよくなるのか、面白くなるのかという気持ちになることもあります。

鈴木 それよりも、どうしたらこんなに簡単に諦めるような人間を減らせるのかと考える方がいいんじゃないかと思います。みんながみんな羽生さんを前に将棋を打つているような感じなんですよ。羽生さんと言つたらプロ棋士がやつたってだいたい負けますから。だけど羽生さんだって人間ですから、わからないじやないです。俺だって勝てることがあるかもしれない。例えば盲腸になつちやつたとか言つたら勝ちですから。だからあまりにも簡単にすぐ諦めちやうという考え方をどうやつたら変えられるのかということをやつていつた方がいいかもしれません。そのためにはちょこちょこやるくらいじやなくて劇的に変えなきゃいけないんだけど、劇的に変

えながら細かい部分もやらなきやならなかつたりとか、下手すれば何十年もかかるかもしれないですし。何十年もかかって今のようなところてんみたいな脳みそしか持つていらない人間が増えてしまつた状況ですから。

会場A 私たちが小さい頃は道徳という時間がありましたよね。きちんとこういうような、という。そういうのは小さい時からの積み重ねで、今子育てしているお母さんたちが道徳についてどういう捉え方をしているのだろうと思います。学校任せ、塾任せ。自分はカルチャーセンター。今教えている先生方も、二十代三十代のお若い先生だったら道徳という言葉についてどういう捉え方をしているのかなど。

門脇 結果主義というか、成果をあげた人が優秀だとう世界観なんじやないかと思うんですね。鈴木さんが

無気力な人、すぐ諦める人をなんとかしようとおっしゃいましたが、競争して勝てないことはやめようとか、やつても何ら数字的成果があげられないようなことは無駄とか、損だとか、そういう世界観に浸されつづけた結果、すぐに諦めたり無気力になつていると思うんですね。ではなぜそれを無駄だと損だと評価するのかと言えば、目標がひとつしかないんですよね。有名大学に入るくる人は今ほとんどが学生です。俺から見ればただの馬鹿ですけど。だって学生の本分つて勉強のはずなのに、彼らは遊びなんですよ。遊びなんだけど、本当にことん遊んでいるわけではないですよ。なんでかと言えば小さい頃からことん遊んだ経験がないから。とことんたどり着けないと負けとか、不幸せになつてしまふ。そんな中でみんなの目標を追わずにいられるのはよっぽどの天才か頭がおかしいかなのかもしません。

鈴木 負け組勝ち組つて、マスコミが作ったやつでしょ。フジテレビだから勝ち組、テレビ東京だから負け組とい

うわけでもないでしよう。テレビ東京はエロもあるから、逆に勝ち組だつたりするかもしれないし。

門脇 その多様なゴールを用意できるか。本気でゴールだと思えるか、思われられるかという部分が、今日の道徳にとつて重要な気がします。「こういうことをしゃべる目だよ」というのだけではなく、そうした豊かさのようないろんなゴールがある」とか言つても納得しないでしょ。でも私自身、とてもゆらいだ気持ちになります。

例えばアートをやつていると、それが多様なゴールを提示するものだと一方では思つていいながらも、こんなことばっかりしていく本当にいいのだろうかと、時として不安や恥ずかしい気持ちになることがあります。

鈴木 道徳もそうなんですが、子供たちが本当にはじけられていない。だから大学生になつてはじける必要もないのにはじめちゃつたりするのかなと。国分町から出てくる人は今ほとんどが学生です。俺から見ればただの馬鹿ですけど。だって学生の本分つて勉強のはずなのに、遊ぶというのはゲームとかそういうのではなくて、一心不乱に駆け回つたりおにぎっこをしたりということです。親から金もらつて小学生からカラオケなんてふざけ

んじやないと思うんですけど。金を使えないと遊べないと思い込んでいる小学生が多過ぎます、仙台は。非常にかわいそうだなと思いました。私には小学生の友人がふたりいます。私のゲームの師匠なんですが。金なくたつて遊べるじゃないですか。大人が金がないと遊べないということをあまりに見せ過ぎてしまっているのかなと。そういうところが、こらえ性がないように見えて、がまんさせてしまっているんじゃないかなと。遊びたいのに塾に行かなきやなんないとか。門脇さんが塾やっているから言いつらい部分もあるんですねけれど……。

門脇 まあ、うちの塾は癒し系ですからね。

鈴木 執行くくらいだつたら遊んではあーっと発散してから予習復習をちよちよっとやつた方が自分の場合は頭に入つたなど。メリハリがないんですよ、子供のうちから。大人のことをわかりきつたような感じの子供が多いんですけど、実はわかつてません。

渡辺 子供の話を聞いていて思つたんですけど、みなさん地域の子供とか、日本の子供とかいうことで話されている気がします。子供は世界中どこにでもいるじゃないですか。日本の子供が駄目でもアフリカの某国の子供がはじけているならないじゃないですか。

鈴木 俺、嫌です。日本に完全に諦めちゃつてるんならそれでもいいんですよ。他人がどう言おうと——国粹主義者なのかな——やっぱり日本が好きなんでしょうね。日本のガキなんてどうでもいいやと刹那的になつてしまつたらどうなかなと思います。諦めるなど言つてい

る自分自身がそんな簡単に投了したらよくない。自分は子育てはしなくていい年齢になつたんですが、子供の友達が何人か来てまして、最初はゲームだつたんですけど、最近は昔遊んでいた遊びなんかをやつてはじけてるのを見ると、遊び方知らなかつたのかなと。何かのかたちでみんながもつと教えてあげれば、日本の子供は駄目じやないと思います。そう考えるとよその国の子供がいるから日本の子供は駄目でいいという考えは違うように思います。

渡辺 逆に日本の子供だけよくなればいいですか。

鈴木 自分の目の届く中だけでしか言えない部分があるということです。今の俺がグローバルなことを言つたら、「おまえ東北会病院に行け」とか絶対言われますよ、精神病院のことなんですけど。もちろん世界というものを相手にするなら、一番近くのものを大事にしなかつたら、世界も何もないと思います。いきなりでつかいところに行つても難しいと思います。それほどのことを自分は考えられない。

渡辺 もうちよつと近いところでいくと、同じ市内の子供、石巻の子供や南三陸の子供とかあるじゃないですか。おんなじ日本です。それで言うと、子供の何かを気遣うというのは、その距離によつて変わるものでしようか。

鈴木 自分が常日頃見ているというのを中心にしているんですけど、見えなくなるとわからないのでわからることに関しては言えないのかなという感じがします。ただやはり子供というのはいくらいつたとしても

の若い人でラオス——インドシナ半島にある貧しい国ですよね——そこに行つて、日本のレストランもないですし、現地の店しかなくて、ボランティア活動とかしてたんですね。食べ物が恋しくなつて、何食べたいと聞いたら、マクドナルドのハンバーガーが食べたいと。それを相手にするなら、一番近くのものを大事にしなかつたら、世界も何もないという感覚なんですね。子供の頃から刷り込まれているわけですよね、味とか。

鈴木 実はうちの息子と娘も同じこと言いました。その時にものすごいショックでした。そうだったのかと。俺の教育が間違つっていたのかなとかいろいろ悩んだんです。今から十年以上前の話なんですが、すごいため息が出ちやつて、しばらくもわーんとなつちやつたんですよ。まさか自分の子供までそんなこと言うのかと。文化的侵略なんて言うと大げさ過ぎるのかなとその時まで思つていたんですが、冗談じゃないと。そういうのつて、教育とかいう以前、地域の大人がわからないところで、看板はあるしCMはあるし、何よりお小遣いで買え

るんですもんね。本当にスタンダードになっちゃったというか。怖いなと。それ考えたらカレーもそうなのかとも思うんだけれども。そうするとだんだんものが食えなくなったりするんですけど。

門脇 実際、生活はもうそうなっていますよね。百均、フアミレス、コンビニ、ショッピングモール…安いし便利ですし、使つてしまふ。逆に使わないで生きることは今、不可能になつてきている。その一方で地域に根ざした商店街のよさもあるわけです。同じトイレットペーパーがスーパーでは298円なのに、商店では倍くらいで売つていて。それでもそつちを買う気持ちになるかどうか。買う気持ちを起させるような何かがあるのかということですね。みんながピカピカのショッピングモールを目指すのではなく、そのまちそのまちの商店街なり商店なりのよさを多様なゴールとして本当に提示したり、感じたりできるのかどうかということなんだと思います。では自分はどうなのが言え、百均で買うわけですね。商店街で買うことも重要だと考えているし、よそのまちに行けば利用しますけれど、自分のまちの商店街で買うことは皆無と言つてもいいです。でも大事だと思います。大事だと思うけれども行動としては違うことをする——こうした私のあり方に、戦争へ突き進んでしまつた行為は重なりませんか。

鈴木 戦争は絶対やつちゃいけないと想いますし、広島の平和公園に「安らかにお眠りください。過ちは繰り返しませんから」というのを、元自衛官といふこともあり、

行くたびに絶対やつちやいけないと想いながら読む

んですけど、それと向こうが攻めて来た時に戦争に行かないというのとはちょっと違うのかなという感じがします。自衛隊を辞める時に、万が一有事があつた時にはあなた方は第一陣だからねとはつきり言われているんですけど、拒否もできるんですよ。昔とは違いましたから。だけれどもおそらく向こうから先制攻撃を受けた場合、私は拒否しないで行くんじやないかなと思います。それは家族を持っているけれども、家族だけでなく地域とか日本とかを守らないといけないなと思うとそういうのかなと。それがたぶん、死ぬとわかついていても行くと思います。それがこちらから戦争だというのなら絶対反対です。

門脇 日本を守る、この地域のために、というのがすごくうさん臭く聞こえて育ちました。

鈴木 それはおそらくうさん臭いようなことを政府でやつてたこともあるし、今もやつてるんだけど、さつきも言つたように先の大戦で戦争を始めた人たちつていうのは、自分でドン・パチやつてないんです。やつてないからできるんですよ。他人の痛みは百年がまんできるつていうじやないですか。

渡辺 原発もいっしょですよね。

鈴木 そうです。

門脇 じゃあ、まちを大事にしようとかいうのもそれに似ていますかね。まちづくりとか言つても言つてるのは実際にまちづくりしてる市民じやなくて仕掛けてるだ

けとかね。

鈴木 自分がごみ拾いをやろうと思ったのは、ただ単に自分がお世話になっているところが汚いのが嫌だというだけなんですよ。だから別にたいそうなことを考えて

いるというわけではなくて。あとは教育のおかげだと思うんですけど、汚れてたら片付ける、きれいにするといふのを小さい時から親や地域の人、先生方から教わつて来ているので、ただその通りにやつては致命的です。自分の部屋は汚れていてもいいんだけれど、ここ観光地じゃないですか。観光地で汚れているのは致命的だと思います。去年の8月13日に京都から来られたお客様さんに「仙台は杜の都つて、うけど違うね。ごみの都仙台だね。夜から朝にかけては無法地帯仙台だね」と言われたんですよ。その言葉を聞いて、仙台生まれでもないのになぜかかーっと来ちゃつて…。

門脇 まちをよくしていったり、自分のこととして捉えたりといふそこのきっかけが、鈴木さんの場合は売り場があるからとか、そうした固有な理由が普遍的なものとして我々一般に伝わつて来るその伝染力のようなものが求められているのか。あるいは…。

鈴木 理由なんてないと思うけどな。そこまで別に何かする必要なんてないんじゃないですか。ごみが落ちていたら捨うという基本的なことを考えていいんですけど。だからボランティアとか言うよりも、気づいたらみんなが捨つてはいるというのならボランティアなんていりません。

門脇 そのある意味当然のことが行われていれば、戦争に進むこともないかもしないですね。

鈴木 駄目なものは駄目とはつきり言えばいい。おかしな政治家が出てきたら国政に送らなければいいんですから。

門脇 しかし仮設住宅では現にそうでない状態が起つており、この辺りでも「みが普通に落ちている」という状況があるわけですよね。

鈴木 先の大戦では軍人たちだけがわーっと行っちゃつたという風に捉えられている面がありますけれど、実はそうじやない部分がかなりあるんですよ。日清・日露戦争で日本が領土を取つたり、戦時補償を得たりして味しめちやつたんですよ。それで2匹目のどじょうならぬ3匹目のどじょうを狙つて満州国を作つたりなんて、軍部だけでできないですよ。そこに経済界があつたり、国民のみんなもうかれちやつたんですよ。あれはだから一部の軍人だとかA級戦犯ばかりじゃなくて、国民の9割くらいは戦争に進んじやつたんだと。勝っているうちで終わつていればよかつたんですけど——だから早期講和論を出した人もいっぱいいたんです——勝つてるうちつて止められないんですね、ギャンブルもそうですけど。門脇 それで負けたのがよかつたわけですけれど…。

鈴木 よかつたかどうかはわかりませんよ。前回は日本の敗戦で終わりました。今度戦争が起こつたら敗戦では済まないです。おそらく地獄に生物が住めないくらいになつちやうかもしません。

門脇 ということで、そろそろ時間となつてまいりました。また次にこの議論をつづけていきたいと思います。

今日は特別ゲストの渡辺さん、ありがとうございました。

渡辺 いいですか、最後に一言。さつき南相馬に行って帰つて來たんですが、仙台の人たちに伝えてくださいと言われたことがありますて…今思い出したんですけど。

南相馬はご存知の通り原発の影響でたいへんな状況になっています。実は今まで当たり前のよう仙台が一番自分たちの生活にとつて近いところという感覚で来たが、今回それを改めて感じたと。通勤通学していた人も今は仙台に下宿していたり、放送などもラジオ福島ではなくて東北放送ですか、そつちを聞いていたというんです。震災が起きて仕方なく福島の情報としてはラジオ福島の方が福島の情報を詳しく把握できるのでそつちを聞くようになつたそうですが。南相馬の人にとって仙台というのはそういう場所だということを仙台の人伝えくださいとのことでした。

門脇 これについては次回しつかり議論していかないといけませんね。外の目も入つてくることによつて震災と反戦、そして仙台という場がいかに語られていくべきなのかが浮き彫りになつて来ているように思います。今日はみなさん、どうもありがとうございました。